

国際ロータリー第2660地区
ガバナー

大谷 透



2003-2004年度のR I 会長であったマジアベ氏は、ロータリーはロータリアンだけで成り立っているのではなく、そこには多くの人々、特に配偶者・家族の理解と支援があるからこそ、私たちロータリアンは、ロータリーの理念に基づき“親睦（友情）と奉仕”の業を実践できるのだと強調され、12月を「家族月間」にする事を提唱されました。12月はクリスマス家族会など、会員家族を対象にした親睦交流のプログラムが恒例となっているクラブが多く、歴代R I 会長はこれを踏襲し、家族の大切さに思いをはせる月間として定着してきました。

我々の目指す健全な平和社会実現のためには、その最小単位である一個一個の家庭の健全さが重要な要素です。家庭のありようが健全さを失えば、健全な平和社会は成り立つ筈がありません。司馬遷の言葉「九牛一毛」はそれぞれが自分の家族を大切にしなければならないことを教えています。

家庭における教育の大切さが再認識されなければなりません。そしてその成果が生み出されるためには、ロータリーの中核をなす価値観である「高潔さ」「思いやり」「リーダーシップ」は必須です。

先月はロータリー財団月間でした。我々ロータリアンは「世の中のためになる良いことをしよう」の標語の基に創られたロータリー財団に協力し、世界平和を夢見ます。しかし、もし自分の家

庭さえも平和に保つ事が出来なくて、どうして世界平和が達成できるでしょうか。

ロータリーの綱領（目的）は、“奉仕の理想”（Ideal of service）を全生活の場に適用せよと励ましています。先ず一番身近な家庭に適用することから始めましょうという事です。即ち、家族一人ひとりのニーズをよく汲み取り、理想的な形で満たしていきましょう、最もその家族に必要なことは何かを考えて尽力しましょう、ということなのです。

人間の普遍的で最も大きなニーズの一つは人のためにした行為に対して感謝されることです。先ず日頃の協力に対する感謝から始めましょう。家族同士がお互いの人格を尊重しあっている関係にあるかどうか反省してみましょう。「家族月間」にあたり、まず家庭でロータリーを身につけることを意識しましょう。

知識を得ても、実践が伴わなければリーダーたり得ません。どうか家庭内においても、リーダーとして家族の温もりを自ら作る実践を始めてください。この年を互いに感謝の心をもって締めくくり、温もりのある家庭で新しい年を迎えましょう。2010年が皆様のご家族にとって暖かな陽がさす年であることをお祈りします。

今回で今年最後のガバナーメッセージとなります。